

来年度予算 実質的には6億円の増加 ～予算概要説明会より～

2月16日(月)、マスコミ発表に先立ち、市議会議員を対象にH27年度当初予算概要説明会が開かれました。基本的には、市がほめて欲しいことを説明するものなので、予算書の中身を見ないことには、なんとも言えませんが、いくつか紹介しておきます。

実質的には6億円増加の予算規模

一般会計予算額を単純に今年度と比較すると、15億円の増加となっていますが、国の経済対策による年度をまたぐ処理などを整理すると、実質的には6億円の増加となると、市から説明がありました。

消費税率が昨年4月から8%になったことで、市の支出も増えていますが、その影響をどう考えるのかも明らかにしてゆかなければならないと思います。

歳出では土木費の伸びが顕著

歳入で増減額が大きくなるのが、土木費です。その額11億7260万円と5割り増し。事業の中身を見ると、金額が膨らんだ原因と思われるものは、霞ヶ丘線の整備で2億8000万、

城山公園拡張に2億2100万円、水道管の耐震化に1億5000万円など。予算書を前年対比して見ないとハッキリ言えませんが、歳入が増えた分これまで抑えていた事業が膨らんでいるような印象を受けます。

市議団が議会質問した内容なども盛り込まれる

空き家の実態調査、あさび一号の更新、など、党市議団が議会質問などで求めた内容も盛り込まれています。

私立学校支援事業については高校だけでなく、小中学生についても補助される内容です。市の考え方も聞く必要があります。

尾張旭市議会議員の定数を定める条例改正を求める直接請求について

昨年11月中旬より、市議会議員の定数を19名にするよう求める直接請求署名が尾張旭市内で行われています。直接請求に必要な署名は、有権者数の1/50の約1300筆で、2月12日に市選挙管理委員会へ1862筆の署名簿が届けられました。

今後、手続きを経て、議員定数を19名とする条例改正案が、3月末には市長提案で市議会に提案される見込みです。

議員定数を19名とする同様の条例改正案が、昨年6月議会に議員提案で提出されたものの、賛成6、反対12で否決をされています。4月の市議会議員選挙を目前に控えて、昨年6月と同様の結果になるかどうかは不明ですが、もし、賛否が変わると言うことになれば、6月議会で否決された際に述べられた反対理由(川村議員)＝①ここ数年の市議会での議論の積み重ねで、次期市議選は定数は現状維持の21という意見が大勢であること、②議員定数の議論は、落ち着いた話し合いで検討すべき。という議論を覆すことになり、各議員の見識

が問われることとなります。

短期間で、これだけの署名を集めたエネルギーには感心しますが、その署名の集め方は、かなり強引な手法が取られていると、複数の議員から伝えられています。

また、議員定数を減らせという声が一定数あることは、各議員も深く受け止め、市議会の存在意義を住民に感じてもらえるような、努力を続けていく必要もあるのだと思います。

